

オオキンマンまたまた現る！



1. 概要

- ◆実施日時：平成30年7月14日（土）9：00～12：30
※7, 8日荒天により延期
- ◆場 所：高知県土佐清水市大岐
- ◆共 催：環境省土佐清水自然保護官事務所、いそあらし、
土佐清水ジオパーク推進協議会
協力：土佐清水市環境課、土佐清水市立市民図書館
- ◆参 加 者：8名（募集定員20名）
- ◆天 候：晴れ
- ◆内 容：広大な砂浜をもち、海水浴やサーフィンに利用される大岐の浜で、海岸
のゴミ拾いや漂着物bingo、漂着ゴミアート作品づくりを通して、漂着物
に目を向け、その面白さや問題について知ってもらう。

2. 実施風景 (1) 漂着物のおはなし

集合時間9時をまわると、すでに
かんかん照りの大岐。
まずは木陰に逃げ込んで、漂着物
のお話から。

大岐の海岸で遊んだこともある清
水人にとっては、漂着物は割と身
近なもの。

漂流ロマンあふれる流木や植物の
種や、人が作ったペットボトルや
浮き、瓶など。

一つは、自然由来のもの。
もう一つは、ヒト由来のもの。

ヒト由来の、いわゆる人工物は、
海でゴミとなって、たくさんの生
きものに悪影響を及ぼしていま
す。

漁網にからまるウミガメ。
プラスチックを誤飲して、消化
できず餓死してしまった海鳥。

今回は、それらに目を向けて、楽
しく掃除・再利用しようという趣
旨のイベントであることを確認し
ます。



<閑話>

大岐はサーフィンでも人気なスポットですが、
サーファーの方の中には、
利用した浜のビーチクリーンを自発的に
している人も少なくありません。

ただ楽しむだけではなく、
お礼を自然に還元していくスタイルは、
海山川関係なく、真似ていきたいですね。





(2) おはなし（ジオパーク）

ちょっと暑いですが浜へ。

おや？市ジオ室の佐藤さんが、なにか小さな袋を引きずっています。（写真の矢印）



よく見ると、袋に黒い砂粒のようなものがくっついています。

実はこれ「砂鉄」。



さっそくルーペを取り出して、砂を観察していると、砂鉄は黒いですが、白っぽい粒がたくさん含まれていることに気がづきます。

大岐の砂浜には、鉱物のほかに、貝のカラやサンゴの骨、小さな生きもののかけらなどがたくさん含まれています。

これが、白い砂浜の正体なんですね。

(3) ゴミ拾い

気持ちよさそうなサーファーを横目に、ゴミ拾いスタート！
全日までの荒天で、ゴミもかなりたまっています。

流木を掃除機や平均台に見立てて遊びつつ、オオキンマンの仲間を作るためのパート拾いにも余念がありません。





(4) ゴミビンゴ

場所を移動して、大岐福祉センターへ。
パーツをより分けて、使いたい物を探しつつゴミビンゴ大会！



「青色のもの」「外国からきたもの」「動物の骨」「植物の種」などが項目に。

意外とみんないろいろな種類の漂着物を拾っていることがわかりました。



よく水洗いをして
水気を拭き取ったら・・・



(5) アート作品づくり

一息ついたら早速作品づくり！
グルーガンを使って、パーツを組み合わせながら、思い描いたものを再現していきます。

親子で一緒に作ったり、自分で作ったり。



一つの作品を時間をかけて作る子もいれば、次から次へと作品を生み出す子も！

まるで、ゴミに命を吹き込むように作品ができあがっていく様子は、見てるだけでも楽しいひとときです。



(6) 作品発表 約1時間の作業で、総勢15の作品ができあがりました！



それぞれの作品に名前をつけて、どんな特徴があるか、何ができるかを発表してもらったので、紹介します。



「ロケットマン」
(りと)
ひものところから
ひもがとびだす。



「ロケットビーム」
(えいきち)
しろ
白いボタンを押すと、
あお
青いところから
タマネギソースが出る。



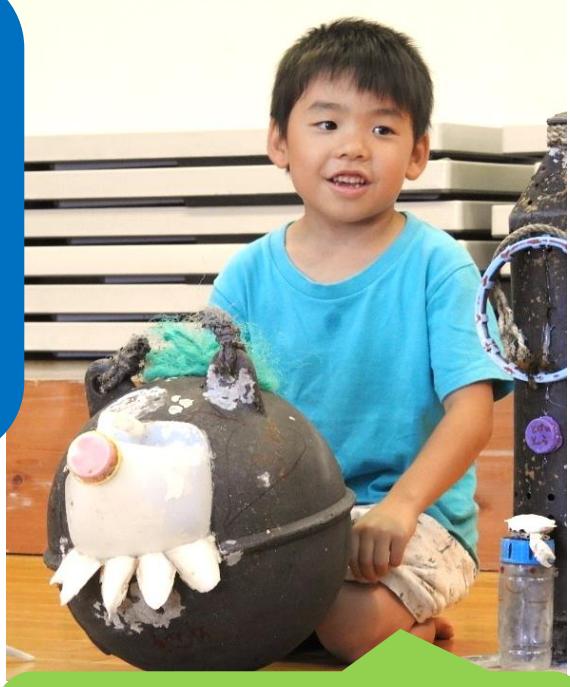
「ミロヨビーナス」
(MC にいや)
おおき はま ときどきあらわ
大岐の浜に時々 現
れ、みんなの視線を
しせん
くぎづけにする。



「アイスクリーム」
(きょうこ)
バニラアイスクリーム味



「オオキンさん」
(レンジャーいました)
大阪出身。休みになると
大阪からやってくる。
オオキンマンの公式ライ
バルで、特技はサーフィ
ンと大阪からの夜通し
運転。



「ふねのゆうれい」
(あつき)
鼻のところから強い攻撃が出る

「ウィスキー蒸氣
エンジンタクシー」
(いつき)
エンジンが動くと、
ウィスキーのふたから
蒸気が出る。

「オオキンマンオレンジ」
(ジオ・さとう)
みんなの残り物からできた
オオキンマンの仲間。
必要なときに帽子が取れ、
軽石で磨き、フォークで
ゴミをかき集める。



「へっぷりまん」
(はると)
鼻から出る光線でたたかう
上の石からはトゲ、
松ぼっくりからはビーム、
台座からはオムライス
が出てくる。



3. 参加者のこえ

- ・子どもが遊んでいるのを見守るだけではなく、親も一緒になって参加できるのが良かった。ただ、暑くて外での作業が辛かった。(40代 女性)
- ・ゴミビンゴはゲーム性があって良かった。延期になったせいか、参加者が少なかつたのが残念。(40代 女性)
- ・工作が楽しかった。(小学校1年生)
- ・普段親子でできないようなことができ、ゴミを拾って工作し、それを展示するところまで楽しめるのがよかったです。(40代 男性)
- ・図書館の展示を見て、学校で声をかけられた。(小学校3年生)

など

4. まとめ



漂着ゴミをモンスターのパーツとして拾い集め、工作をして漂着ゴミアートを作り、ゴミモンスター「オオキンマン」の仲間としてお披露目するこのイベント。

今回は、拾ったものを使ったゴミビンゴをすることで、ゴミにはどういう物があるかを知つてもらう機会も作り、完成した作品を図書館で展示し、まちの人たちにも身近な海岸の漂着物について考えてもらえるようにするなど、さまざまな仕掛けを作りました。

世界中で問題になっている海洋ゴミや漂着ゴミ。

手がつけられないように思える大きな問題や、普段気にかけないことに対して、「自分ができること」を考え、楽しみながら踏み出す一歩目。そういう役割をもって、これからも続けていきたいものです。